

リハビリ支援 PIP 創外固定器 NIK II 取扱説明書

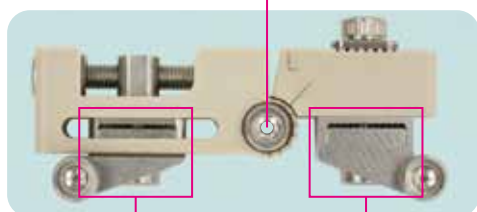
各部の名称

本体（左タイプ例）

K ワイヤーホール

シャフト

遠位側



近位側

固定部
(遠位側)

固定部
(近位側)



付属六角レンチ

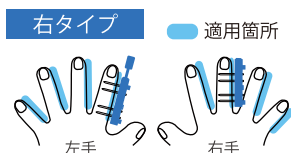


全ネジ部で共通使用可能

術前の確認

■ 左右のタイプ

本品には左タイプと右タイプがあります。
それぞれの適用箇所を確認のうえご使用ください。



■ ピンおよびK ワイヤーの直径

以下の直径のものが本品に適用可能です。

- ピン：φ1.0～1.5mm

NIK II ピン刺入用ガイドブロック（裏面*2 参照）
を併用する場合には、φ1.0 / φ1.2 / φ1.5mmい
ずれかのピンをご使用ください。

- K ワイヤー：φ1.2mm

可動部の調整 / シャフトの取り付け・操作

各可動部に係わるネジを付属の六角レンチで回して調整します。

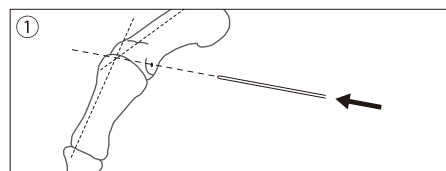
<p>屈曲・伸展の角度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ネジを緩める 2) 角度を調整する 3) ネジを締めて固定させる 	<p>固定部位置（近位側）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ネジを緩める 2) 固定部をスライドさせ調整 3) ネジを締めて固定させる 	<p>固定部位置（遠位側）</p> <p>ネジを回して固定部の位置を調整する</p>
<p>固定部の締め付け</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ネジを緩めて開く 2) ピンを通す 3) ネジを締めてピンを固定させる 	<p>シャフトの取り付け</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ネジを緩める 2) シャフトをはめ込む 3) ネジを締めて連結する 	<p>シャフトでの屈曲・伸展</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ネジを緩める 2) シャフトを回転させる

使用方法等は裏面に記載

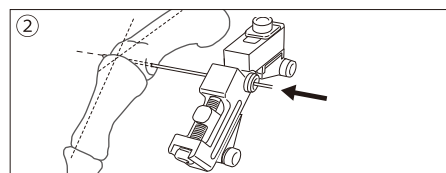
使用方法

- ① 基節骨の骨頭中心に対して垂直にφ1.2mmのKワイヤーを刺入します。
この刺入位置で回転運動の中心が決まるので、ここは重要な操作です。

・刺入時の注意（*1）をご確認ください。



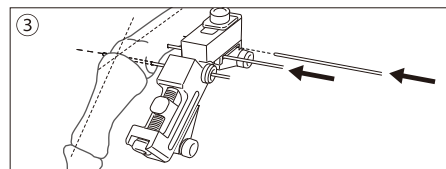
- ② 先ほど刺入したKワイヤーを本品連結部のKワイヤーホールに通します。



- ③ 基節骨に合わせて本品の位置を調整し、基節骨にピンを2本刺入します。

- 1) 目的とする刺入箇所に合わせて本品の固定部の位置を調整します。
- 2) 刺入するピンの径に合わせて本品の固定部を開いて間隔を調整します。
- 3) ピンを刺入します。

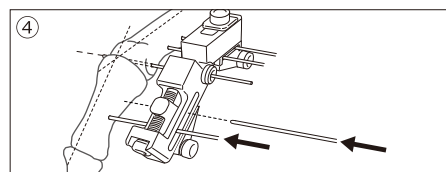
・NIK II ピン刺入用ガイドブロック（*2）を併用しますと、透視下で視界を妨げないため、ピンの位置を容易に確認しながら刺入できます。



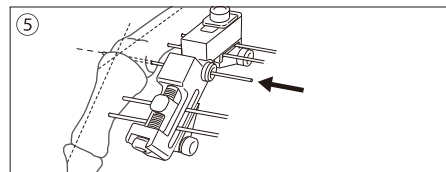
- ④ 中節骨と指の屈曲角度に合わせて本品の角度を調整し、中節骨にピンを2本刺入します。

- 1) 目的とする刺入箇所に合わせて本品の固定部の位置を調整します。
- 2) 刺入するピンの径に合わせて本品の固定部を開いて間隔を調整します。
- 3) ピンを刺入します。

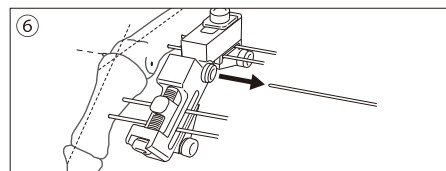
・NIK II ピン刺入用ガイドブロック（*2）を併用しますと、透視下で視界を妨げないため、ピンの位置を容易に確認しながら刺入できます。



- ⑤ 本品の固定部を締めて刺入したピンをしっかりと固定します。



- ⑥ Kワイヤーを抜き取ります。

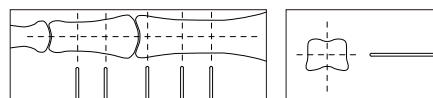


- ⑦ 関節裂隙開大のために症例に応じた適切な距離の延長を加えます。

関節運動の練習は、X線撮影で関節裂隙が十分に開大したことを確認してから実施してください。シャフトを回転させ、無理のない範囲で屈曲伸展を行ってください。創外固定器の装着期間や練習回数などは患者様とご相談のうえ適宜決定してください。

*1 刺入時の注意

Kワイヤーやピンの刺入時は、透視下で正面、側面、斜位等を確認し、骨軸と垂直に、かつ互いに平行になるようにピンを刺入してください。



*2 NIK II ピン刺入用ガイドブロック

Kワイヤーと同一直線状にピンを刺入できるため、リハビリ支援時にスムーズな回転運動が期待できます。PEEK材を使用しているため透視下で視界を妨げません。

